

令和4（2022）年度

高大地連携
「むかわ町×鷗川高校×札幌大学」連携事業

※内閣府「関係人口創出・拡大のための中間支援モデル構築事業」に採択

報 告 書

札幌大学 地域連携センター

令和5（2023）年3月

主な活動内容

1. 鵜川高校における探究型学習「むかわ学」において、大学生が協働し、高校生の課題発見から提言発表までを支援。

- ・鵜川高校3年生10グループのうち4グループ（クレープ班、コスプレ班、スマート農業班、キャンプ場班）16人の取組に大学生11名が協働で参加。

- ・7月意見交換会、8月むかわ合宿、9～10月班別活動、11月意見交換会等の活動を経て、12月にむかわ学提言発表会にて発表。
- ・高校生・大学生向けに地域課題解決につながるデジタル技術に関するセミナーを2回開催。

2. 「教員発案型授業B（履修者：53名）」において、むかわ町をフィールドに地域課題を学ぶこととした講義を実施。

- ・講師としてむかわ町住民の方を招聘し、現況町についての説明をいただく。
- ・ワークショップの実施 など。

関係団体

団体名	役割
札幌大学	高校生の探究型学習支援。地域課題解決に向けた研究・実践活動を展開する。
北海道鵜川高等学校	探究型学習「むかわ学」の実施。地域との協働のあり方を検討する。
むかわ町	むかわ学への支援。公営塾の設置・運営。提言の施策への反映を検討する。
一般社団法人北海道総合研究調査会（HIT）	中間支援組織として、高校・大学・自治体のそれぞれの課題を踏まえ、3者の連携と調整・コーディネートを行う。
株式会社Prima Pinguino	むかわ町の現地に置いているコーディネーターを活用し、中間支援組織と共に活動することで事業の効果的実施を図る。

教員発案型授業B講義スケジュール

日程	内容・講師
9/30(金)	「むかわ町」をフィールドに「地域課題」を学ぶ / HIT 五十嵐 智嘉子 氏
10/7(金)	実践例から学ぶ地域課題 / PrimaPinguino 原 大介 氏
10/14(金)	人口減少社会における地域課題 / HIT 五十嵐 智嘉子 氏、神谷 憲一 氏
10/21(金)	地域への入り方の第一歩 / PrimaPinguino 中島 淳 氏
10/28(金)	地域課題を強みに変える / PrimaPinguino 藤岡 慎二 氏
11/4(金)	むかわ竜・博物館 / 穂別博物館 館長 櫻井 和彦 氏
11/11(金)	こだわりの農家 / むかわ町観光協会長 小坂 幸司 氏
11/18(金)	町に根差したIT企業 / フラワーヒルズ 社長 山下 康 氏
11/25(金)	むかわ地域商社Mdino 代表取締役社長 遠藤 研二 氏
12/2(金)	首長（むかわ町長）からの課題提示 / 町長 竹中 喜之 氏
12/9(金)	むかわ町と鵜川高校3年生との連携事業 / 北海道立鵜川高等学校 校長 三村 素道 氏 連携事業参加学生
12/16(金)	鵜川高校3年生提言発表会の視聴（ビデオ）
12/23(金)	むかわ町の地域課題解決案の検討①
1/13(金)	むかわ町の地域課題解決案の検討②
1/27(金)	まとめ・発表



活動スケジュール

日付	活動名
2022年5月27日(金)	<p>まち歩き・ひと巡りの会</p> <p>小坂 幸司 氏：農家（小坂農園代表取締役）、むかわ町観光協会会長、むかわ町教育委員 椿 文子 氏：農家（農業指導士、JAむかわ理事）、むかわ町まちづくり委員 山下 康 氏：フラワーヒルズ株式会社 取締役社長</p>
5月31日(火)、6月7日(火)、17日(金)	<p>オリエンテーション・説明会</p>
6月27日(火)	<p>デジタル技術セミナー</p> <p>「地方創生の背景と取組の必要性」「リバース・イノベーションによる地域課題解決と産業興し」などについて、産業能率大学 藤岡慎二 教授によるセミナーを開催。 ※学生：オンライン参加</p>
7月1日(金)	<p>高校生と大学生の意見交換会</p> <p>鷓川高校生と札幌大学生が初めて直接対面して意見交換を行った。アイスブレイクの後、大学生から高校生に対して「なぜそのテーマを選んだのか」等の質問を通じた意見交換を行い、高校生が考える地域課題の再確認と今後の進め方についての理解を深めた。</p>
7月20日(水)	<p>鷓川高校中間報告会</p> <p>鷓川高校で行われた中間報告会に大学生がオンラインで参加し、高校生の課題意識や各班が取組を進める上での課題等を確認した。</p>
7月22日(金)	<p>中間報告に対するフィードバック</p>
8月16日(火)～18日(木)	<p>むかわ合宿</p> <p>高校生と大学生が交流を深めるとともに、提言内容を深堀することを目的に合宿を行った。初日はむかわ町の人口の現状分析や地域課題と対応策、2030年の社会の姿などの講義を実施した上で、地域課題の原点を見直すワークショップを実施。2日目はグループ別に地域住民へのヒアリングやフィールドワークを実施。最終日は、前日のフィールドワークの振り返りや3日間の感想を共有したあと、提言発表会に向けての大まかなストーリーづくりを行う。最後に藤岡教授による将来に向けたテクノロジーの活用に関するグループワークを行い合宿は終了。</p>

活動スケジュール

日付	活動名
9月11日(日)	<p>【班別活動】クレープ班（札幌研修） クレープ班の研究内容を深めるため、札幌大学の仲介により札幌市内のクレープ店の市場調査及びクレープ製作研修を行った。</p> <p>【班別活動】コスプレ班イベント開催 コスプレ班の研究内容を深めるため、むかわ町内の法城寺及びむかわグルメフェスタ会場を舞台としてコスプレイベント「むかわコス」を開催した。</p>
9月23日(金)	<p>むかわ町復興応援フェスタ「みんなで楽しく学ぼう」への参加 「地域防災への取組ブース」、「札幌大学VR体験ブース」を出展。学生2名が各ブースの運営補助に携わり、来場した町民の皆さんをはじめ、イベントに参加しているむかわ町の方々や鷗川高校の生徒さんとの交流を図った。</p>
9月30日(金)～2023年1月27日(金)	<p>教員発案型授業B「むかわ町をフィールドに地域課題を学ぶ」（15コマ） 地域や地域課題解決の取組に面白さを感じてもらい大学生の関心を高めてもらうため、むかわ町をモデルに半期15コマの授業を実施。 前半5コマは「地域課題は面白い」と題し中間支援組織等が講師を務めながら実践例から学ぶ地域課題解決策や地域課題の構造化などを講義。中盤5コマは「地域を支える人材は面白い」と題し、むかわ町の地域住民を講師として招いた。後半5コマは「地域課題の解決案の検討」としてこれまでの授業内容を踏まえ、大学生自ら地域課題解決案の検討を行った。</p>
10月23日(日)	<p>【班別活動】クレープ班販売実習 提言発表会に向け、研究内容のブラッシュアップを図ることを目的に「クレープ販売実習」を実施した。むかわ町観光協会が運営するチャレンジショップの一角で、開発中のクレープ「mumuCrepe（むむクレープ）」限定20個を販売。高校生がクレープ作成、大学生は広報や販売価格設定に関する面でサポートを行った。</p>
11月1日(火)ほか	<p>大学生スキルアップ研修 提言発表会に向け、研究内容のブラッシュアップを図ることを目的に「クレープ販売実習」を実施した。むかわ町観光協会が運営するチャレンジショップの一角で、開発中のクレープ「mumuCrepe（むむクレープ）」限定20個を販売。高校生がクレープ作成、大学生は広報や販売価格設定に関する面でサポートを行った。</p>

活動スケジュール

日付	活動名
11月14日(月)	<p>高校生と大学生の意見交換会</p> <p>鷗川高校生による提言発表会前の最後の意見交換会。班別に作成途中の提言発表内容を確認した後、きっかけ・動機から町への提言内容までのストーリーを明確にした上で、データ等を追加し伝わる提言に向け大学生からアドバイスを行った。</p>
12月16日(金)	<p>鷗川高校との留学生交流会</p> <p>異文化交流を通して、国際的視野で物事を考える重要性を学び、国際意識の醸成を図るだけでなく、北海道の風土・文化等への理解を深めることを目的に5か国8名（中国・台湾・韓国・アメリカ・ベトナム）の外国人留学生を同校へ派遣、外国人留学生と高校生が円滑なコミュニケーションを図れるようファシリテーターとして、地域共創学群英語専攻の日本人学生4名も参加し、活発な交流を図る。</p>
12月16日(金)	<p>むかわ学提言発表会</p> <p>これまでの「むかわ学」の集大成として、鷗川高校生が「むかわ町をより良くするため」の解決方法を提言した。大学生もその場に参加し、発表後の質問などを行った。</p>
2023年2月4日(金)～11日(土)	<p>さっぽろ雪まつりむかわ町特設ブースのボランティア参加</p> <p>むかわ町、北海道鷗川高等学校との包括連携協定に基づく連携事業の一環で、「さっぽろ雪まつり むかわ町特設ブース」にボランティアスタッフとして、日本人学生10名、外国人留学生8名が参加しました。</p>
2023年2月～3月	<p>むかわ町の地域おこし協力隊インターン「ムカワカレッジ」に学生が参加</p> <p>むかわ町の地域おこし協力隊インターン（以下、ムカワカレッジ）に、経済学専攻2年の2名の学生参加。</p> <p>※ムカワカレッジ：まちづくりや観光業務の他、鷗川高校が取り組む課題探究型学習「むかわ学」の支援など、行政での様々な業務を体験するもので、都市部の大学との連携で、関係人口の創出や若者の人材育成・還流につながるしくみ作りを推進したいという町の思いが詰まったプログラム。</p>

主な成果

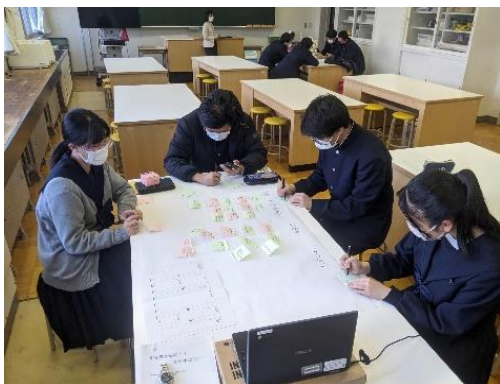
1. 事業を通じて得られた気づきや知見

- 地域の人と意見交換する中で、地域資源に対する見方や地域で働くことに対する意識が変化。
- ワークショップ方式に慣れるに従い、他者の異なる意見を取り入れ、提言を改善していく力をつけられる。
- 地域課題の発見について指導方法をプログラム化していくことが必要。



7月意見交換会

8月むかわ合宿



11月意見交換会



教員発案型授業

課題解決のための取組と成果

課題① 地域課題の分析力・対応策の構築力の向上

- データ分析や地域住民へのヒアリング方法、他事例比較などでステップアップが必要（高校の課題意識）。
- ファシリテーターとして大学生を参加させ、地域課題の把握や対応策の検討を一緒に行い、能力向上を目指す。



大学生スキルアップ研修

ファシリテーション全てを任せるには大学生に経験が少ないことがわかったため、札幌大学と中間支援組織が協力し「大学生向けオリエンテーション」「大学生スキルアップ研修」を実施

- 地域外の社会資源を活用した地域課題提案がなされた。
- 「①町民や専門家の話を聞き、理解する力」「②仲間（高校生・大学生）と意見交換し、自分の考えや行動を整理する力」「③地域課題の分析から提言までのストーリーをまとめる力」が高校生・大学生に身についた。

課題② 地域と関わる将来像への意識の醸成

- 大学進学などで一度は地域を離れてしまっても、再び地域の課題を解決するための人材として活躍できる意識の醸成が必要。
- 大学生にとって地域は実践の場。二地域居住など将来の関係人口への意識を醸成。



高校生と大学生によるクレープ販売実習

新事業を興す難しさや楽しさ、役割の重要性などを感じることができ実践機会が重要。マーケティング調査や販売実習、実際のイベント実施などの機会を提供

- 地域の課題が身近になり、さらに自分でもできるということを実感できたことで、むかわ町だけでなく人口減少に直面する地域全体へ関わろうという意識変化につながった。

課題③ 汎用的な仕組みの構築

札幌大学 教員発案型授業の開講

- 取り組みやすいこと、地域住民など周辺が取組を応援すること、関わった人が外部に発信し別の人を呼び込み続けること、といった継続的なプログラムの構築が必要。



単年度で終わることのないよう、3者の意識合わせ等を実施。地域課題解決に興味を持つ大学生を発掘し、スキルアップを図るための新たな授業を大学内で開講

- 提言発表会の場において、道内大学に合格した生徒から、「将来は、むかわ町に帰って学んだことを活かしたい」との発言。地域に戻って地域課題解決に取り組む、人材循環の積極的な可能性がみられた。